

キヤノン株式会社

2018 年第 2 四半期 決算説明会【主な Q&A 要約】

Q1. 4 月公表時点では計画通りに推移しているとして年間見通しを据え置いていたが、今回、営業利益が 255 億円引き下げられた。対計画の変化を上期と下期に分けた場合、どのような見方をすればよいか。

A1. 全体として上期は計画通り、引き下げの影響は下期に寄っている。

Q2. イメージングシステムビジネスユニットの引き下げのうち、カメラとインクジェットプリンターでは、どちらの影響が大きいのか。

A2. カメラの方が大きい。

Q3. スライド 18 で有機 EL 関連ビジネスの公表値の見直しについて、有機 EL パネルに対する需要の一時的な調整影響と説明されているが、一時的とはどの程度の時間軸で考えているのか。来期以降も含め、有機 EL 蒸着装置の見方をどう認識されているのか教えてほしい。

A3. 有機 EL パネルに対する先々の展望から考えれば、数年も調整期間が続くとは考えておらず、その前には回復すると見ている。これまでの需要に応えるべく生産体制を拡大してきたが、この間に生産性の向上など体制の強化に取り組み、備えを万全にしていく。

Q4. 説明の中で新規事業が増えるとの話があったが、現在の進捗を教えてください。

A4. 現行事業がほぼ横ばいで推移する中、メディカルやネットワークカメラを中心とした新規事業が 2Q の全社の成長を牽引しており、年間でも同様に牽引役として期待している。

Q5. スライド 19 のイメージングシステムビジネスユニットの在庫について、下期に向けて在庫が増えているとのことだが、2Q のカメラの販売が弱かった点なども影響していないか。

A5. 上期の販売が想定に届いていない点も影響している。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。